

2007年7月27日

JABA事業委員会

## 第二次社会人野球制度改革案（中間報告）

事業委員会では、本年度より施行した新社会人野球制度について検証し、是正すべき点について検討した。また、中長期的に取り組むべき課題と方向性について以下のとおり報告する。

### 1. 検討項目

- (1) 日本選手権対象のJABA大会の検証と提案
- (2) クラブチームの公式大会のあり方
- (3) 社会人野球日本選手権大会のあり方と社会人野球シーズン

### 2. 協議事項

- (1) 日本選手権対象のJABA大会の改革

新社会人野球制度の施行に際し、昨年7月13日に開催の地域活性化委員会での協議を受けて、2007年度の日本選手権対象のJABA大会の内容については、前年度の形態を大きく変えないで移行することを申し合わせていたことは周知のとおりである。新制度施行1年目前半を経て、事業委員会としては以下のとおり提案する。

#### ◆主旨)

JABA大会は、野球競技の普及と社会人野球のファン層拡大を目指すものである。各JABA大会の認知度と出場するチームにとっての価値観を高めるための施策を検討する。

#### ◆現状)

長年トーナメント方式を基本にしてきたが、近年、リーグ戦+トーナメント方式を取り入れる大会が好評を得ている。特に一定の試合数を確保できる点である。

一方で、トーナメント方式を継続している一部の大会では、当初予定としたチーム数を下回ったり、実績が伴わない地元地区のクラブチームを無条件で出場させているケースがあり、試合の質の低下やワールドゲーム数増加の要因となっている。

日本選手権の出場権を競う大会については、チーム数を絞り、レベルの高い大会を目指すべきである。

◆提案内容)

【大会運営】

日本選手権対象のJABA大会については、原則として「リーグ戦・トーナメント方式」で大会を行うこととし、各大会ごとの出場チーム数についても大会方式に見合う数に限定する。

ただし、当面の間（概ね2年間）は移行準備期間とし、準備が整った地区から適用する。2010年度から全大会に適用とする。

※ 別紙参照

【出場チームの選考】

日本選手権対象のJABA大会への出場チームについては、各地区連盟が一定のレベルにあると判断できるチームを推薦すべきである。また、必要があれば前年の秋季か、直前の春季に予選を実施して選考することも検討すべきである。

【東京スポニチ大会の特例】

東京スポニチ大会については、地元（関東）地区に有力チーム数が多いことから「地元地区所属チームは、参加チーム数全体の1/2以下としている制限を適用しない。」ことを提案する。また、本提案の「リーグ戦・トーナメント方式の採用」については、参加チーム数が16チームを超える場合、運営上の課題が多いことから、その適用の是非については別途協議する。

【財政支援】

リーグ戦・トーナメント方式については、日本選手権対象の大会でも、すでに北海道、東北、長野で導入されているが、チーム数を絞ることにより、参加料収入減となる。また、一方で複数球場が必要となるため、財政的な体質の改善が不可欠である。

従って、本計画の実施に際しては、日本選手権予選費としての財政支援を提案する。なお、都市対抗では各地区連盟に対し、予選費として160万円が支出されている。

◆効果)

限られたチーム数によりレベルの高い試合を増やすことができる。参加チームの遠征効果も高める（一定の試合数を確保する）ことができる。トーナメントでは、1回戦で敗退するレベルのチームでも公式試合数が増え、レベル向上につなげることができる。

◆問題点)

参加チーム減による参加料収入減  
複数球場の確保と運営体制の広域化

◆その他の課題)

・ 大会日程の重複

本年度は、四国と静岡、長野と岡山、九州と東北の日程がそれぞれ重複した。来年度の日程重複を避けるため、すでに各地区連盟へ各大会日程案を提示している。

・ 東京スポニチ大会の繰り下げ

特に関東以外のチームから、3月に春季合宿を行えるようなスケジュールまで時期繰り下げの要望があり、関東地区連盟に調整を依頼している。

・ 北海道大会のチーム数

原案では12のチーム数を確保すべく割り振られ、補強選手を加えたとしても厳しい状況であったが、本年度は何とか確保することができた。来年度以降、西日本地区（中国・四国・九州）の参加も促すべきである。

(2) クラブチームの公式大会のあり方

① 現状

ここ数年急増し、全国300チームに達する勢いであるが、現状制度では、公式戦が少なく、さらに弱いチームほど試合数も少なくなる現状である。また、一方で高校野球には16万人の登録者が存在しており、毎年5万人強が社会人になっている現状から、普及の余地は非常に大きいと言える。従って、長期的な視野で、クラブチームが自主的に運営する新たな全国的なモデル作りが必要である。

② 実態調査

300のクラブチームのグループ分け・再編、及び10チーム程度ずつのグループによる自主運営化を目指し、実態調査を行う。

③ クラブ野球振興長期計画（仮称）

実態調査を経て、事業委員会として「クラブ野球振興長期計画（仮称）」を答申する。

(3) 社会人日本選手権大会のあり方・社会人野球シーズンについて

本年より施行されている新社会人野球制度では、日本選手権の位置付けの明確化と各JABA大会の活性化に主眼が置かれているが、日本選手権そのものの活性化案には触れられていない。事業委員会では、社会人野球全体の発展を目指し以下のとおりこのテーマについて議論しており中間報告とする。来年2月の理事会までに答申をまとめる。

- ① 日本選手権の開催時期について  
日本選手権の開催時期は、現行の11月下旬ではシーズンが長すぎる  
ことと、近年の国際大会が11月中旬に行われる傾向があることから  
10月下旬とするべきである。課題は以下のとおり。
  - ・ 大阪ドームがプロの本拠地と併用のため、クライマックスや日本シリーズの時期に使用できない。
  - ・ 都市対抗は、集客が一番望める8月下旬開催としているから、各地の予選方法の一新が必要である。
- ② 日本選手権出場チームについて  
本年より32チーム出場となったが、現状では大阪ドームの器に対し、  
集客があまりに寂しすぎる。日本一を決める大会であるならば、思  
い切って、ファイナルに進出できるチーム数をさらに絞って出場す  
ることの価値観を高めることも必要である。
- ③ 日本選手権代表決定方法の改革  
日本選手権は、「その年度の日本一を決する」大会と位置づけており、  
レベルの高いチームが揃うJABA大会（例えば、日立、ベ杯、広  
島など）があれば、地域振興を図るためにもさらに優勝枠を増枠し  
てもいいのではないか。また、各地区最終予選枠を減とすることも  
含めて、9月と10月の予選方法の改革を検討すべきである。
- ④ 日本選手権の広域開催化  
全国レベルの大会が常に一ヶ所で行われるのではなく、地域振興を  
図るためにも、1、2回戦の広域開催化も検討してはどうか。
- ⑤ 他の団体とのタイアップ  
以前から議論されているいわゆる「天皇杯」構想について他団体と  
の交渉をスタートすべきである。これまで天皇杯構想は、財政基盤  
が異なるため、日本選手権とは切り離して議論してきたが、各JABA  
大会にプロファームが出場しており、仮に優勝した場合は出場  
を打診しても良いのではないか。  
また、ベースボールフェスティバルのようなイメージで、他の団体の  
（例えば、プロファーム日本選手権）イベントを期間中に組み込  
むことも検討する。
- ⑥ スポンサーとのタイアップ  
社会人野球シーズン全体をひとつくりのシリーズとし、今後、冠ス  
ポンサーも含めて、タイアップを進めるべきである。

#### 4. その他

##### (1) 登録規程改正について

クラブチーム間のシーズン中の転籍について、選手個人の意思でシーズン中に移籍することにより、元のチームの運営が立ちいかなる例が出ているため、ある程度の規制が必要であるとの意見があった。事業委員会として実態を調査し再度議論の上、常任理事会に上申することとした。

以上